

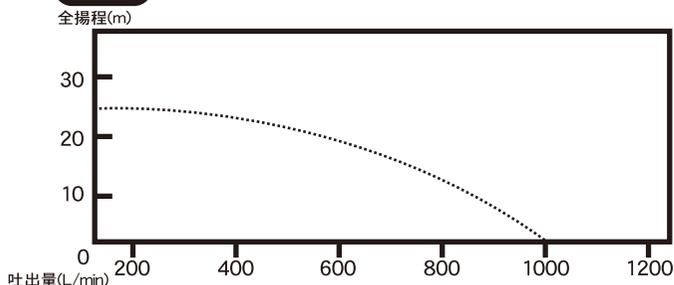
NAKATOMI

Engine Water Pump  
エンジンポンプ

# NWP-80

## 取扱説明書

### 性能曲線



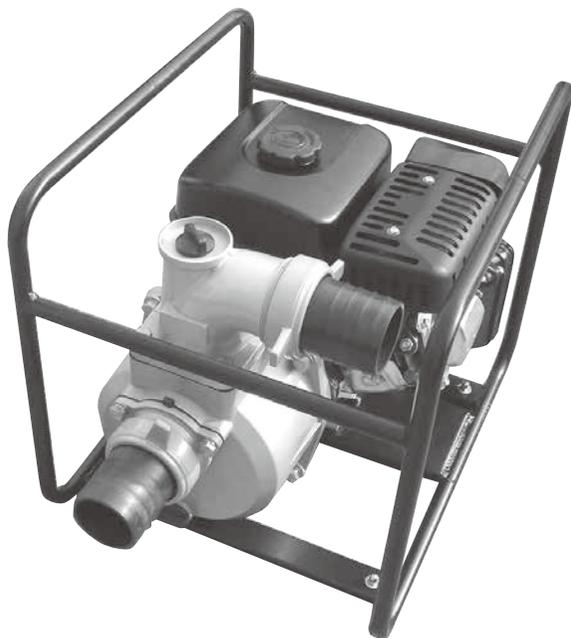
### エンジン

エンジン型式	FL200N 空冷4サイクルガソリンエンジン
総排気量	196ml
出力	4.4kW(6PS)/3600min <sup>-1</sup>
使用燃料	無鉛ガソリン
タンク容量	3.6L
燃料消費	約2時間(満3.6L)
点火プラグ	NGK:BPR6ES
始動方式	リコイルスターター方式

### ポンプ

吸入口径	Φ≒80mm(3インチ)
排出口径	Φ≒80mm(3インチ)
接続部ネジ	管用平行ネジ
全揚程	25m
吸入揚程	7m
最大吐出量	約1000L/min

質量(本体重量) 約27kg  
本体寸法(mm) W515×D415×H465



■現場等の排水作業に

■畑の灌漑、園芸用の散水に

この度は、弊社、エンジンポンプ「NWP-80」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。尚、取扱説明書は、大切に保管してください。

# 目次

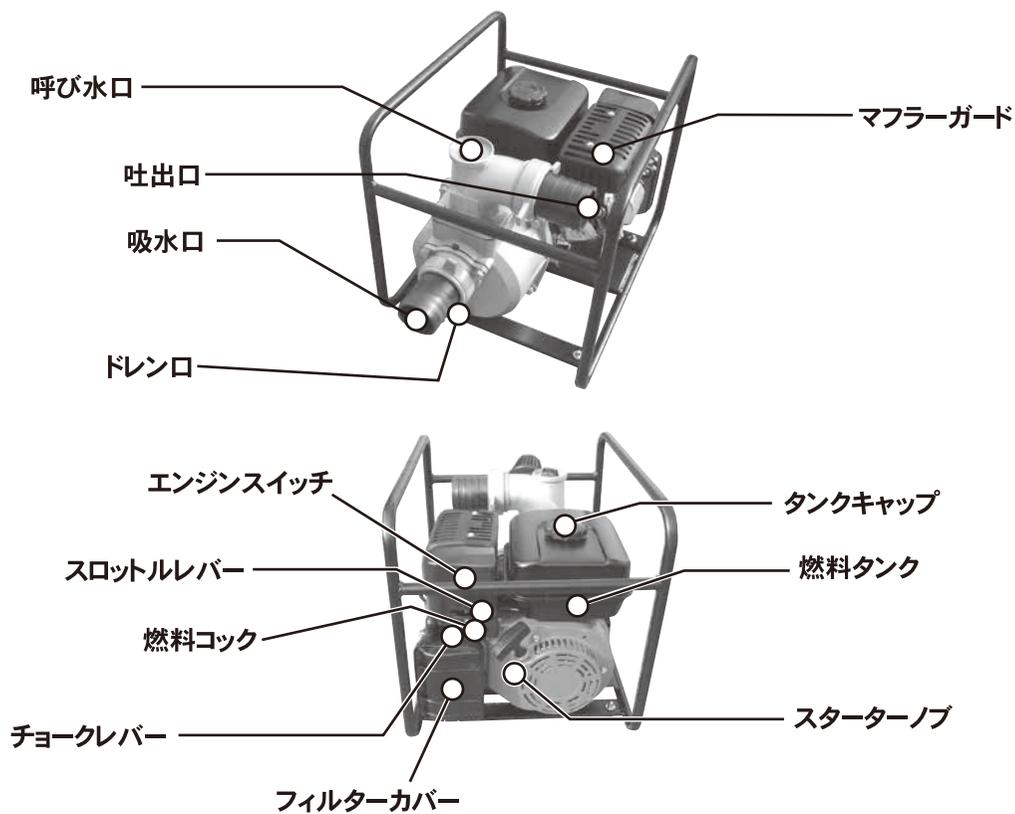
---

● <b>セット内容、各部名称</b>	<b>P1</b>
● <b>ご使用前に</b> <small>安全上の注意事項 警告/注意</small>	<b>P2</b>
● <b>組立方法</b> <small>・カップリング、ホース、ホースバンド、パッキン ・ストレーナー</small>	<b>P3</b>
● <b>使用前確認</b>	<b>P4</b>
● <b>使用方法</b> <small>・呼び水 ・エンジンの始動 ・スロットルレバー ・エンジンの停止</small>	<b>P4, P5</b>
● <b>保守と点検</b> <small>・使用後 ・長期間使用しない時 ・点火プラグ ・エアフィルター ・オイル点検、交換 ・その他</small>	<b>P6, P7</b>
● <b>故障かなと思ったら…</b>	<b>P8, P9</b>

## セット内容



## 各部名称



# ご使用前に

## 安全上の注意事項

- ◆ご使用になる前に安全上の注意事項をよくお読みになり正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、守らないと、人身事故や物的損害に結びつく重大な内容を記載しています。
- ◆読み終わったあとは、お使いになる方がいつでも見られる場所に保管してください。
- ◆本機を譲渡される際は、必ず取扱説明書をつけてお渡しください。

【表示と意味】

### 警告

使用を間違った場合に、使用者が、死亡または、重傷、物的損害が想定される内容を表記しています。

### 注意

使用を間違った場合に、物的損害や、傷害を負う可能性がある内容を表記しています。

### 警告

- エンジンは作業機に搭載した状態で使用できるように作られていますので、絶対にエンジン単体で始動させないでください。
- エンジンを始動させる前に必ず各部の点検を行ってください。
- 運転操作のわからない人、指導を受けていない人には絶対操作させないでください。特にお子様は危険です。
- 本機に付いているカバーやラベル、その他の部品を外して使用しないでください。又、改造はお止めください。
- 疲れている時や体調の悪い時、酔っぱらっている時、又は薬物を服用している時は絶対に使用しないでください。
- エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め点検、又は修理を依頼してください。
- ガソリンは非常に引火性が高く、気化したガソリンは爆発事故を起こす恐れがあります。燃料補給の際は必ずエンジンを止めて、エンジンが冷えた後、周りに火気が無い事を確認後、補給してください。
- 燃料補給の際や燃料タンクの側では絶対にタバコを吸ったり、火気や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意してください。もしもこぼしてしまった場合には、こぼしたガソリンを良く拭き取り、良く乾燥させてからご使用ください。
- 屋内や倉庫等の換気の悪い場所では使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。
- 風通しの悪い場所や、排気のこもる場所でもガス中毒の原因となりますので、そのような場所でも使用しないでください。
- 側に物のある所に設置する場合には、火災防止のため最低1m以上離して設置してください。1m以上の間隔がとれない場所では使用しないでください。
- 本機の周りに、おがくずや紙、石油、シンナー、火薬等の燃え易い物は近づけないでください。爆発事故や火災の原因となります。
- 運転中、使用後いつでも、本体の上に物を置かないでください。破損や故障、思わぬ事故の原因となります。
- 使用後すぐにエンジンやマフラーに触れないでください。火傷の原因となります。
- 運転中、高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電の恐れがあります。

### 注意

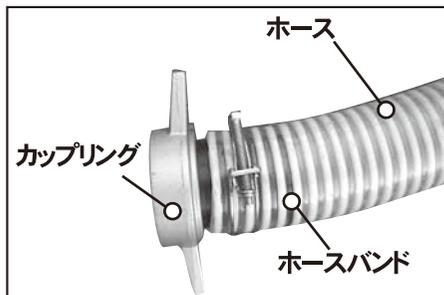
- 燃料系統の部品に異常が無いかを定期的に点検してください。
- 使用時、ガソリンは常に新しい物を使用してください。古いガソリンを使用していると、運転が不調になる原因となります。
- リコイルスターターや冷却フィンの周りについたゴミは取り除くようにしてください。
- 使用後直ぐにエンジンやマフラーの周りを触らないでください。大変熱くなっており、火傷の恐れがあります。
- 飲料水のくみ上げや、養殖場等では使用しないでください。

※注意に表記してある物でも状況によっては、死亡、重傷等、重大な事故につながる恐れがありますので、必ず守ってください。

## 組立方法

※本製品に接続するホースは付属されておりません。市販されているホースをお求めください。  
※給水ホースは、サクシヨンホースをお求めください。

### ■カップリング、ホース、ホースバンド、パッキン

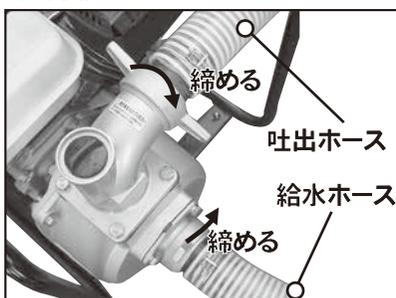


●ホースバンドを使い、ホースをカップリングに接続します。  
※ホースバンドはしっかりと固定してください。

#### 取付前

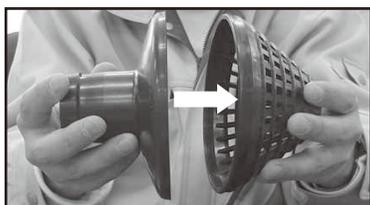


#### 取付後

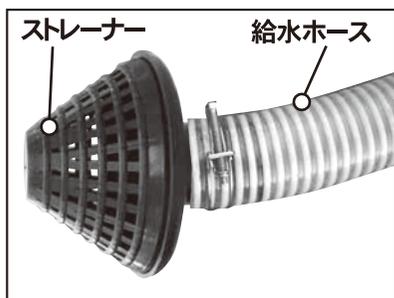


●吐出口、給水口にカップリング、ホースを取り付けます。カップリングを時計方向に回してしっかりと取り付けてください。  
※パッキンを必ず入れて取り付けてください。

### ■ストレーナー



●ストレーナーの上と下をしっかりとはめ込んで下さい。  
※必ずしっかりと取り付けてください。使用中に外れると、ゴミや石等を直接吸い込んでしまい故障の原因となる恐れがあります。



●給水ホースの本体の逆側にストレーナをしっかりと差し込みホースバンドで固定してください。  
※必ずしっかりと取り付けてください。使用中に外れると、ゴミや石等を直接吸い込んでしまい故障の原因となる恐れがあります。

## 使用前確認

●ご使用前には必ず下記内容をご確認ください。

### ・エンジンオイルの確認

エンジンオイルの量が少ないとオイル検知器が作動してエンジンの始動を行うことが出来ません。また、使用中に検知器が作動するとエンジンを自動的に停止させます。トラブルを未然に防ぐためにご使用前のオイル確認は必ず行ってください。

### ・燃料タンクや燃料ホースから燃料が漏れていないか確認してください。

燃料が漏れたままで使用しますと引火、火災、爆発等の事故に繋がります。燃料漏れがある場合は使用しないでください。また、燃料給油時に燃料をこぼされた場合はこぼれた燃料をきれいに拭き取ってからご使用ください。

### ・ご使用される場所は平らな場所でご使用ください。

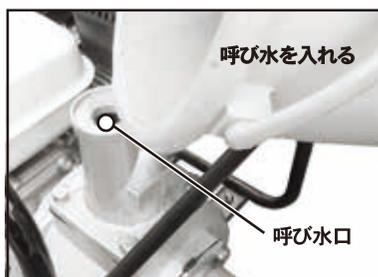
傾斜地などに置かれてご使用されますと正規の出力での使用が出来なかったり燃料漏れ、エンジントラブルなどの原因になります。またエンジンの振動により本体が移動するなどの危険が出てきますので、本体は平らな場所に置いてご使用ください。

## 使用方法

※エンジンを始動させる前に必ずオイル量は充分か？燃料は入っているか？確認してください。

●給水ホース、吐出口側のホースを任意の位置にセットし、燃料タンクに無鉛ガソリンを入れてください。

### ■呼び水



●エンジンを始動させる前に、呼び水口のキャップを外し、呼び水を充分に入れてください。

※呼び水を入れずにエンジンを作動させるとポンプの故障等の原因となります。必ず呼び水を入れてください。

### ■エンジンの始動：スイッチ



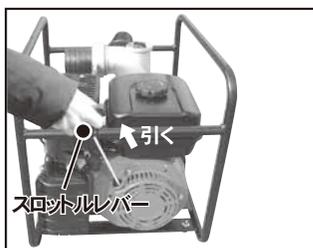
●初めに、エンジンスイッチをONにしてください。

## ■エンジンの始動:チョークレバー、燃料コック



- エンジンを始動させる時は燃料コックを開側にし、チョークレバーを閉側にしてください。
- ※エンジン始動後は調子を見ながらチョークレバーを少しずつ開の位置に戻してください。
- ※特に寒い状態で始動させる時は必ずチョークを閉じてください。

## ■エンジンの始動:リコイルスターター



- スロットルレバーを半分ぐらいまで開け、本体を固定しながらリコイルスターターのノブを引いてください。

## ■スロットルレバー



- エンジン始動後はスロットルレバーを必要とする回転数に調節してご使用ください。
- ※作業を中断する時は必ずスロットルレバーを低速にしてください。

## ■エンジンの停止:スイッチ



- エンジンを停止させる際は、回転数を低速にして1~2分位運転した後、エンジン本体部に付いている、エンジンスイッチをOFFにしてください。エンジンが停止します。

## ■使用後

- 使用後はポンプ内を綺麗な水で洗浄してください。

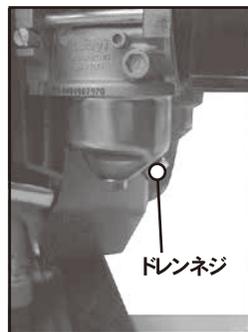
## ■長期間使用しない時

- 長期間(30日以上)使用しない場合には、気化器内、燃料タンク内のガソリンを抜いてください。

①気化器のドレンネジを外し、気化器内のガソリンを抜いてください。

◎気化器内に燃料を残したままにしておきますと、気化器内の詰まり、作動不良等の原因となります。

◎燃料を抜く際は、トレー等を引くか、本体を直接トレー等に乗せるかして、周囲に燃料がこぼれないようにしてください。

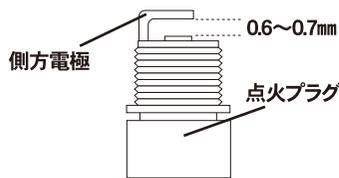


## ■点火プラグ



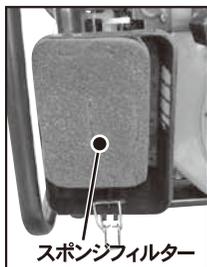
- プラグキャップ、点火プラグを外して、カーボンの汚れがあるかどうか確認してください。
- ◎汚れている場合には、プラグ用クリーナー、ワイヤーブラシ等でカーボンを落としてください。

- 電極の隙間が大きい場合には側方電極を曲げて、隙間の調整を行ってください。



## ■エアフィルター

フィルターの汚れを確認してください。フィルターが汚れている場合には下記の手順で洗浄してください。



- フィルターカバーを固定しているバックルを外してください。
- フィルターカバーを外してください。

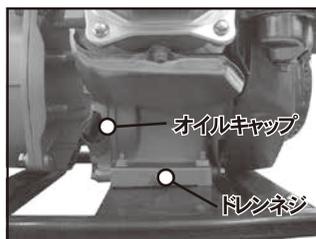
- スポンジフィルターに付着しているゴミ、ホコリを払ってください。汚れのひどい場合には、スポンジフィルターを外し、灯油などでスポンジフィルターを洗浄してください。

◎洗浄後、スポンジフィルターをエンジンオイルにひたし、スポンジフィルターからオイルをよくしぼった物を取り付けてください。(スポンジフィルター内にオイルの残量が多いと、エンジン不調の原因となります。)

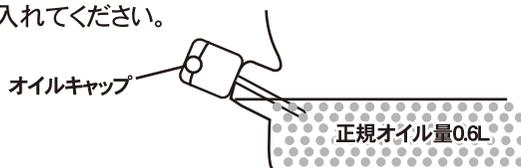
◎洗浄してもフィルターの汚れがひどい場合、またスポンジフィルターの弾力がなくなったり、傷みがある場合には、新しい物と交換してください。

◎エアフィルターが汚れているとエンジンの始動不良や出力不足等の原因となりますのでエアフィルターは綺麗にしておくようにしてください。

## ■オイル点検、交換



- オイル交換の際は、オールドレンネジをゆるめてオイルを抜いてください。
- オイルを注入する時は、オイルキャップ(ゲージ付き側)を外し、注入口から充分な量のオイルを入れてください。



◎初回は25時間程度でオイル交換してください。その後は50時間を目安に交換してください。

### ●オイル検知器

この製品にはエンジンオイル量を検知する機器が内蔵されています。使用中エンジンオイルの量が少なくなると検知器が働きエンジントラブル(焼付きなど)を防ぐためエンジンの運転を停止させます。またエンジン始動時にエンジンオイル量が少ない時も検知器が働いてエンジン始動は行えません。ご使用前にはエンジンオイルが適正量入っているかを確認の上、ご使用ください。

オイル検知器はオイルの劣化を検知するものではありませんので定期的にオイル交換を行ってください。

## ■その他

- 定期的にマフラーの点検、各部のナット、ネジのゆるみが無いか確認、燃料の漏れや、オイル漏れの確認をしてください。
- 各部についたゴミやホコリもしっかりと拭きとってください。水洗いはしないでください。

# 故障かなと思ったら・・・

## エンジンがかからない又はすぐ停止する (燃料系)

原因	対策
①燃料が無い/燃料が古く腐っている。	①新しい燃料を補給する。
②燃料の吸い込み過ぎで点火プラグが濡れている。	②点火プラグを外し、スタートノブを5,6回引き、点火プラグを装着して、再度エンジンを始動させる。
③燃料パイプが折れている又は、外れている。	③燃料が流れやすいようにパイプを調節する。

## エンジンがかからない又はすぐ停止する (電気系)

原因	対策
①点火プラグが汚れている	①点火プラグを掃除又は交換する。
②点火ミスをする	②点火プラグを交換する。

## エンジンがかからない又はすぐ停止する (その他)

原因	対策
①エアフィルターが汚れている	①エアフィルターの掃除をする
②マフラーにカーボンが詰まっている	②マフラーの掃除、カーボン除去
③圧縮が不足している	③ピストン、ピストンリング、シリンダーの交換
④エンジンオイル不足	④エンジンオイルを正規量入れる

## ポンプが回らない

原因

対策

- ①エンジンの焼き付き
- ②羽根車がロックしている

- ①お買い上げの販売店に修理を依頼する
- ②点検・整備、清掃をする

## 水を吸い上げない

原因

対策

- ①呼び水が入っていない、又は足りない
- ②吸込側から空気が入っている
- ③エンジンの回転数が不足している
- ④メカニカルシールが損傷している
- ⑤吐き出し側ホースの詰り

- ①呼び水を入れる、又は追加する
- ②吸込み側ホース、接続部の点検
- ③回転数を上げる
- ④メカニカルシールの交換
- ⑤点検、清掃をする

## 吐出し量が少ない

原因

対策

- ①吸込側から空気が入っている
- ②エンジンの回転数が不足している
- ③メカニカルシールが損傷している
- ④吸込み揚程が高い
- ⑤羽根車の磨耗
- ⑥エンジンの出力不足
- ⑦吐き出し側から漏れ水がある

- ①吸込み側ホース、接続部の点検
- ②回転数を上げる
- ③メカニカルシールの交換
- ④吸込み揚程を低くする
- ⑤羽根車の交換
- ⑥点検・整備、調整をする
- ⑦漏れ箇所の点検をし、漏れ止めをする

上記の事を点検しても変わらない場合には、お買い上げ販売店、又は、弊社サービスセンターまでお問い合わせください。

# 株式会社 ナカトミ

〒382-0836 長野県上高井郡高山村大字高井6445番地2

●商品についてのお問い合わせは「お客様相談窓口」までご連絡下さい。

**お客様相談窓口 TEL.026-245-3105 FAX.026-248-9615**

※商品の仕様は予告なく変更される事があります。